



子どもの森づくり通信

(発行: NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

「子どもの森づくり運動」
フラグシップ園会報
(2014年5月号)

〒144-0054 東京都大田区新蒲田1-10-4 tel:03-5711-0362 fax:03-5711-2264
http://www.kodomonono-mori.net mailto:info@kodomonono-mori.net

「子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



「東北復興グリーンウェイブ」植樹会で植えられた苗木です。
こんなに大きくなりました。

(目次)

1. JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」植樹会活動レポート
2. 事務局からのお知らせ
 - どんぐり博士の育苗講座 2014～基本編⑪～

■「子どもの森づくり運動」とは

今子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかし、子どもたち(特に幼少期の)は、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「子どもの森づくり運動」は、全国の保育園・幼稚園を拠点に一貫した森づくり活動を通じて、幼児期の子どもたちに「生きる力」と「健全な環境意識」を育むための自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「JP子どもの森づくり運動」とは

特別ご協賛企業「日本郵政グループ」様との協働で、運動を全国に普及促進するフラグシップ活動を「JP子どもの森づくり運動」、フラグシップ活動実施園を「JP園」として活動を展開、2010年7月、フラグシップ園全国ネットワークが構築されました。

■「子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)
- ・特別協賛 : 日本郵政グループ
- ・後援/協力 : (社)全国私立保育園連盟 (社)大谷保育協会
(順不同) (社)国土緑化推進機構 NPO法人C・C・C 富良野自然塾
(社)日本森林インストラクター協会 NPO法人自然体験活動推進協議会
NPO法人MORIMORI ネットワーク (社)日本オート・キャンプ協会
(株)実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部 保育環境研究所ギビングツリー



1. JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」(「東北復興GW」)植樹会活、動レポート

2014年5月22日(木)「グリーンウェイブ」の日に、岩手県山田町において「東北復興GW」の植樹会が開催されました。



前日の5月21日(水)には山田町の植樹フィールドの整備作業が実施されました。作業には、地元保育園の男性保育士、地域住民、全国から集まった活動参加園職員、さらに日本郵政グループ、協力団体有志が参加してくれました。

今回の植樹会には、「東北復興GW」2012年参加園中、35園の参加園から「どんぐりの絆BOX」によって130本の苗木が山田町に届けられました。(地元保育園で育てられた苗木を含む)



植樹会の開会式は、植樹地近くの「岩手県立陸中海岸青少年の家」の体育館をお借りして開催されました。会場には、地元の三つの保育園(山田町第一保育所、豊間根保育園、織笠保育園)の園児約100名と、これまで活動をご支援いただいた関係者の方々にお集まりいただき、応援のご挨拶をいただきました。



三心会武藤理事長代理様



山田町佐藤町長様



日本郵政 篠原広報部長様

他にも今回の植樹会には、全国から10人を超える苗木を送っていただいた幼稚園・保育園の園長先生や職員の方々、さらに地元の郵便局の局長さんたちにもご参加いただきました。



今回の開会式では、「東北復興GW」のテーマソング『どんぐりえがお』がお披露目されました。この歌は山田町の男性保育士グループ「男心会」によって作詞されたもので、どんぐりを育てる活動によって全国の子どもたちがつながり、元気と笑顔が広がっていくというとても素晴らしい作品です。当日は「男心会」の歌と演奏によって紹介されました。

さらにサプライズゲストとして「ドングリーズ」の二人によって『どんぐりえがお』のダンスもお披露目されました。この歌とダンスは、事務局によってDVD化され参加園にお届けできる予定です。楽しみに。



(レポートつづき)

開会式を終えて植樹会です。植樹フィールドは「岩手県立陸中海岸青少年の家」の近くにある山田町町有林の一角です。今回全国から送られてきた苗木はここでもう少し大きくなるまで育てられ、いずれ山田町の緑の復興に活用される予定です。



当日はあいにくの雨模様となり、地元の三つの保育園からそれぞれ三人の代表園児が参加する植樹会となりました。代表の子どもたちは、開会式会場で苗木を手渡されみんなに見送られて植樹会場に移動しました。

植樹会場では、子どもたちが「どんぐり博士」の河内インストラクターの指導で合計9本の苗木を、一本一本ていねいに植樹しました。



その後、子どもの森づくり運動のスペシャルサポーターであるチェーンソーカービング世界チャンピオン・栗田さんによって、植えられた苗木を見守るフクロウの彫刻が作られました。

今回植えられなかった苗木は、6月19日(木)に地元保育園、及び苗木を送っていただいた保育園の職員さんたちを中心に同じフィールドに植えられます。

*上記植樹活動には自由に参加できますので、参加希望の幼稚園・保育園がいらっしゃいましたら事務局までお申込み下さい。(雨天決行)



「東北復興GW」の活動は三年間継続されます。来年の5月22日には二回目の植樹活動が実施されます。

まだ活動にご参加いただいていないフラグシップ(JP)園におかれましては、是非この機会にご参加いただけます様ご案内申し上げます。(今回の活動の詳細は、ホームページにてご紹介します。)



5. 事務局からのお知らせ

子どもたちに活動における大切なことを伝えるためには、折に触れて子どもたちが苗木とふれ合える機会を与えてやっていただければと思います。下記の活動をおすすめします。

1) 苗木をお披露目する活動

地元で子どもたちが拾ったどんぐりや、昨年秋に東北から届けられたどんぐりが芽生えてくれました。そんな季節ならではの活動として「苗木のお披露目会」の実施をお奨めします。活動を通じて、子どもたちと共に生命の芽生えを祝い、あらためてみんなで苗木を大切に育てていこうという気持ちを共有しましょう。



2) 植えた苗木の成長を見に行く活動

苗木は、活動に携わった子どもたちの“大きなあ〜れ！”という願い、そしてそんな子どもたちを見守る保護者や幼稚園・保育園の先生たちの『子どもたちと共に健やかに育て』の願いを込めて植えられ、見守られてまいりました。だから植樹した苗木の成長は、それぞれの実施園における「子どもの森づくり運動」の活動の成果であり、子どもたちの“育ち”のスケールです。そんな苗木を見に行き、その成長をみんなで確認しましょう。



2) 苗木を見守る活動「夏草刈り」のご提案

夏本番を迎え、苗木たちも子どもたちと一緒に元気に育つ季節です。同時に、苗木が植えられたフィールドの夏草も大きく育ち、まだ幼い苗木たちを覆い隠してしまいます。苗木を見守る活動として、有志を募り、夏草刈りを実施しましょう。その際、せっかく育った苗木と一緒に刈らないよう、十分に注意して下さい。



●どんぐり博士の育苗講座 2014～基本編⑰～

基本編⑫から植樹についての記載を続けています。さらに基本編⑮からは植樹時の苗の間隔について考えてきました。回数が多くなり焦点がぼやけてしまいそうなので、今回で苗の間隔の目安を示して植樹についての話を一度まとめたいと思います。

どんぐり博士：河内和男（森林インストラクター）



前回は、林業においては180cm間隔で植樹が行われている事を述べました。この間隔は、子森の活動では開きすぎに見えますが、それでも木が大きくなった際には狭すぎる事を説明しました。さてそれでは、各園での活動の際にはどうすれば良いのでしょうか。この幅にしなければならないとの決まりはありませんが植樹地の広さと条件から考えると、以下のような2つのパターンが考えられると思います。参考にして下さい。

①植樹地が広く周辺の建物や木々などとの空間に余裕がある場合

植樹後一定期間は各木々がのびのびと生長できるよう、林業で用いられている180cm程度の間隔での植樹をお勧めします。ただし、1本枯れると広い土地が空いてしまうので、生育環境が厳しい場合は、一つの地点に2～3本を寄せ植えにして、その苗同士が協調して育つようにし、また枯れて空間が空いてしまうことの予防とします。

②植樹地があまり広くない場合

等間隔でバランス良く植樹する事をお勧めします。その際の間隔は最も狭くて50cm程度から最大で180cm程度の範囲ですが、植樹時や育樹時に人が作業する空間と、見た目のバランスを考えると、80cm～1m程度が適当だと思われます